

安全データシート

作成日: 2025年05月01日

1. 化学品（製品）及び会社情報

製品名:	流動パラフィン70#
製品コード:	
化学品物質等の名称:	流動パラフィン
会社名:	山桂産業株式会社
住所:	大阪府大阪市中央区平野町1丁目8番3号
担当部署:	
電話番号:	06-6231-3277
FAX番号	06-6201-3187
緊急時の電話番号:	06-6231-3277 (土日祝を除く 9:00～17:00)
メールアドレス:	info@yamakei.jp
推奨用途:	食品添加物、化粧品基剤、合成樹脂滑剤、繊維維油剤、潤滑油 紙含浸油、可塑剤、離型剤、顔料分散剤

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類		
物理化学的危険性	爆発物	区分に該当しない
	可燃性ガス	区分に該当しない
	エアゾール	区分に該当しない
	酸化性ガス	区分に該当しない
	高压ガス	区分に該当しない
	引火性液体	区分に該当しない
	可燃性固体	区分に該当しない
	自己反応性化学品	区分に該当しない
	自然発火性液体	区分に該当しない
	自然発火性固体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない
	酸化性液体	区分に該当しない
	酸化性固体	区分に該当しない
	有機過酸化物	区分に該当しない
	金属腐食性化学品	分類できない
	鈍性化爆発物	区分に該当しない
健康有害性	急性毒性(経口)	区分に該当しない
	急性毒性(経皮)	分類できない
	急性毒性(吸入)	分類できない
	皮膚腐食性／刺激性	区分に該当しない
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分に該当しない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分に該当しない
	生殖細胞変異原性	分類できない

	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない
	誤えん有害性	区分 1
環境有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分に該当しない
	水生環境有害性 長期(慢性)	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

注意書き

なし

安全対策

飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。

応急措置

無理に吐かせないこと。

保管

施錠して保管すること。

廃棄

内容物／容器を国、地方自治体の規則に従って廃棄すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別

化学物質

化学名又は一般名

流動パラフィン <Liquid paraffin>

慣用名又は別名

白色鉱油(石油) <White mineral oil (petroleum)>、
ミネラルオイル <Mineral oil>、ホワイトオイル <White oil>、
White mineral oil, Paraffinum liquidum

化学物質を特定できる一般的な番号

[CAS 番号] 8042-47-5

官報公示整理番号(化審法・安衛法)

(9)-1692 (石油留分又は残油の水素化精製又は分解により得られる
潤滑油基油)

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移すこと。身体を毛布などでおおい、保温して安静に保ち、必要に応じて医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合

水と石鹸で付着した部分を洗うこと。

眼に入った場合

清浄な水で目を十分に洗浄したのち、医師の診断を受けること。

飲み込んだ場合

口の中が汚染されている場合には、水で十分にうがいをする。無理に吐かせないで、直ちに医師の診断を受けること。

急性症状及び遅発性症状の

飲むと下痢、嘔吐するおそれがある。皮膚に触れる、あるいは眼に入ると炎症を起こすおそれがある。ミストを吸入すると気分が悪くなることがある。

最も重要な徴候症状

5. 火災時の措置

適切な消火剤

強化液消火薬剤(霧状)、泡消火薬剤、粉末消火薬剤又は炭酸ガス消火剤が有効である。

使ってはならない消火剤

火災時の特有の危険有害性

特有の消火方法

消火に棒状放水を用いてはならない。

燃焼すると、一酸化炭素などの有毒なガスを生成する。〈*1〉

着火源を取り除くこと。初期の火災には、粉末又は炭酸ガス消火剤を用いること。大規模火災の際には、泡消火薬剤を用いて空気を遮断することが有効である。注水は、火災を拡大し危険な場合がある。周囲の設備などに散水して冷却すること。

消火活動を行う者の特別な保護具及び
予防措置

消火作業の際には、風上から行い、必ず消防服を着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具 及び
緊急時措置

環境に対する注意事項

封じ込め及び浄化の方法及び機材

皮膚に触れる、あるいは眼に入る可能性がある場合は、保護具を着用すること。ミストが発生する場合、呼吸用保護具等を使用してミストを吸入しないこと。

土壌の汚染、水質汚濁に繋がる為、可能な限り回収すること。

多量の場合：漏洩した場所の周辺にはロープを張るなどして人の立入りを禁止すること。作業の際には必ず保護具を着用すること。漏洩した液は土砂などでその流れを止め、安全な場所に導いた後、可能な限り空容器に回収すること。河川、下水道等に排出されないように注意すること。
少量の場合：漏出物を土砂、ウエス等で吸着させて空容器に回収すること。

海上の場合：オイルフェンスを展開して、流出物の拡散を防止し、流出物をすくい取る、又は吸着マット等の適切な吸収材を使用して回収すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

安全取扱注意事項

静電気対策を行い、作業着、靴等も導電性の製品を使用すること。

石油製品から発生した蒸気は空気より重いので滞留しやすい。その為、換気及び火気などへの注意が必要である。常温で取り扱うものとし、その際、水分、きょう雑物の混入に注意すること。危険物の残存している機械設備などを修理する場合は、安全な場所において危険物を完全に除去してから行うこと。皮膚に触れる、あるいは眼に入る可能性がある場合は、保護具を着用すること。ミストが発生する場合、呼吸用保護具等を使用してミストを吸入しないこと。みだりに蒸気を発散させないこと。（本SDS第8節参照）
容器から取り出すときはポンプなどを使用すること。細管を用いて口で吸い上げてはならない。容器を溶接、加熱、穴あけ又は切断しないこと。爆発を伴って残留物が発火することがある。空容器に圧力をかけないこと。圧力をかけると破裂することがある。
飲まないこと。子供の手の届かない所に置くこと。

接触回避

炎、火花、高温体並びにハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触を避けること。

衛生対策

作業中は飲食、喫煙をしないこと。飲食、喫煙前には石鹼で手を洗うこと。

保管

安全な保管条件

保管場所で使用する電気器具は、防爆構造とし、器具類は接地すること。ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と同一場所での保管を避けること。容器は必ず密栓し、直射日光を避けて保管すること。換気の良い場所で保管すること。熱、スパーク、火炎並びに静電気蓄積を避けること。消防法危険物の表示をして保管すること。

安全な容器包装材料

別の容器に差し替えるときは、金属又はガラス容器を使用すること。種類により、本製品は樹脂容器を膨潤又は溶解することがある。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等

日本産業衛生学会(2019年版)

3mg/m³ (鉱油ミストとして) 〈*2〉

ACGIH(米国産業衛生専門家会議)

時間荷重平均 TWA: $5\text{mg}/\text{m}^3$ (Oil mist, mineral として) <*3>
 短時間ばく露限界 STEL: $10\text{mg}/\text{m}^3$ (Oil mist, mineral として) <*3>

OSHA(米国労働安全衛生局)

時間荷重平均 TWA: $5\text{mg}/\text{m}^3$ (Oil mist, mineral として) <*4>

保護具

呼吸用保護具

通常必要はないが、必要に応じて有機ガス用保護マスクを着用すること。

手の保護具

長期間又は繰り返し接触する場合には、耐油性保護手袋を着用すること。

眼、顔面の保護具

原料の飛散がある場合には、保護眼鏡を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

長時間にわたり取り扱う場合又は付着する場合には、耐油性の長袖作業服等を着用すること。原料の付着した衣服は脱ぎ、十分に洗浄してから再使用すること。

特別な注意事項

保護具点検表により、定期的に保護具を点検すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

液体

色

無色透明

臭い

無臭

融点／凝固点

情報なし

沸点又は初留点及び沸騰範囲

情報なし

可燃性

情報なし

爆発下限界及び

情報なし

爆発上限界／可燃限界

引火点

176 °C (クリーブランド開放法、測定値)

自然発火点

260～371 °C <*1>

分解温度

情報なし

pH

非該当

動粘性率

 $13.8\text{ mm}^2/\text{s}$ (37.8°C、測定値)

溶解度

水に不溶性 (20°C)

n-オクタノール／水分配係数

 $\log P_{ow} > 6$ <*1>

蒸気圧

ほとんどない (20°C) <*1>

密度及び／又は相対密度

 $0.847\text{ g}/\text{cm}^3$ (15°C、測定値)

相対ガス密度

情報なし

粒子特性

非該当

10. 安定性及び反応性

反応性

情報なし

化学的安定性

安定している

危険有害反応可能性

情報なし

避けるべき条件

加熱、火源及び静電気蓄積を避けること

混触危険物質

強酸化剤、ハロゲン類、強酸類、アルカリ類

危険有害な分解生成物

なし

11. 有害性情報

急性毒性

経口

LD50 >5,000mg/kg (ラット) <*5>

経皮

情報なし

吸入

情報なし

皮膚腐食性／刺激性

皮膚刺激性は認められなかった。(ウサギ、24 時間) <*5> 皮膚刺激性はわずかに認められた。(guinea pig[テンジクネズミ]、時間不明) <*5>

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

眼刺激性は認められなかった。(ウサギ、時間不明) <*5>

呼吸器感作性又は皮膚感作性

皮膚感作性は認められなかった。(guinea pig[テンジクネズミ]、時間不明) <*5>

生殖細胞変異原性

ネズミチフス菌を用いた Ames 試験によれば陰性であった。 <*5>

発がん性

高度精製油 (Mineral oils, highly-refined) は IARC グループ 3 (ヒトに対する発がん性について分類できない) に該当する。 <*6>

生殖毒性

生殖能力への有害な影響は認められなかった。(雌雄のラット、4,350mg/kg、5日/週、13週間投与) <*5>

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

情報なし

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

情報なし

誤えん有害性

40℃で測定した動粘性率が 20.5mm²/s 以下の炭化水素の場合は、区分1である。
飲み込むと、肺に吸い込んで化学性肺炎を起こすことがある。化学性肺炎の症状は、2～3 時間ないし数日経過するまで現れない。 <*1>

12. 環境影響情報

生態毒性

LC₅₀ >10g/L (ブルーギル、96 時間) <*5>

残留性・分解性

情報なし

生体蓄積性

情報なし

土壤中の移動性

情報なし

オゾン層への有害性

情報なし

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報事業者は知事等の許可を受けた処理業者、もしくは地方自治体がその処理を行っている場合には、地方自治体に委託して処理すること。投棄禁止。

14. 輸送上の注意

国連番号

非該当

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行うこと。

国内規制がある場合の規制情報

陸上

消防法 危険物 第四類第三石油類 (指定数量 2000 リットル)

容器

運搬容器の構造及び最大容積: 金属製ドラム 250L 等 (危険物の規制に関する規則第四十三条、別表第3の2)

容器表示

一 危険物の品名 (第四類第三石油類)、危険等級Ⅲ、化学名
 二 数量
 三 火気厳禁
 (危険物の規制に関する規則第四十四条)

運搬	消防法危険物第一類、第六類及び高压ガスと混載することができない。運搬容器の積み重ね高さは、三メートルとする。 (危険物の規制に関する規則第四十六条) 運搬方法の技術上の基準(危険物の規制に関する政令第三十条)
海上	海洋汚染防止法 船舶からの油の排出の禁止(法第四条) 船舶安全法 ばら積み液体危険物 非該当
航空	航空法 非危険物

15. 適用法令

労働安全衛生法(表示・通知対象物質)	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
化学物質排出把握管理促進法	非該当
消防法	危険物 第四類第三石油類
海洋汚染防止法	船舶からの油の排出の禁止(法第四条) :炭化水素油(石炭から抽出されるものを除く。)であって、化学的に単一の有機化合物及び二以上の当該有機化合物を調合して得られる混合物以外のもの(法第三条第二号、規則第二条)
水質汚濁防止法	鉱油類含有量許容限度 5mg/L (ノルマルヘキサン抽出物質含有量、令第三条)
下水道法	鉱油類含有量 5mg/L 以下 (ノルマルヘキサン抽出物質含有量、令第九条等)
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物規制(令第二条等)
食品衛生法	食品添加物使用基準: パンを製造する過程においてパン生地を自動分割機により分割する際及びばい焼する際の離型の目的以外に使用してはならない。 流動パラフィンとして、パンに 0.10%以上残存しないように使用しなければならない。食品用器具・容器包装のポジティブリスト制度(2020年6月1日施行)

16. その他の情報

引用文献及び参考文献

- *1 国際化学物質安全性カード 流動パラフィン (ICSC 番号:1597、国立医薬品食品衛生研究所 2018)
- *2 日本産業衛生学会許容濃度等の勧告(2019 年度)
- *3 Threshold Limit Values for Chemical Substances and Biological Exposure Indices 2005 ACGIH
- *4 U.S. Occupational Safety and Health Administration (OSHA) TABLE Z-1 Limits for Air Contaminants
- *5 European chemical substances information system IUCLID Dataset CAS No. 8042-47-5
(EUROPEAN COMMISSION – European Chemicals Bureau/ 19 Feb 2000)
- *6 IARC Monographs on the Evaluation of Carcinogenic Risks to Humans (Last update, 25 March 2019)

記載内容については、現時点での資料や情報に基づいて作成されたものであり、記載のデータや評価に関しては情報の完全さ、正確さを保証するものではないことをご了承ください。

すべての化学製品には、未知の有害性がありうるため、取扱いには細心の注意が必要です。

ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定いただきますようお願いいたします。

尚、製品の詳しい説明、またご不明の点などありましたら、弊社担当者までご連絡ください。